

## 病害虫発生予察情報予報第 10 号

佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 <sup>注1)</sup>		1月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生	並	並	266~268	
		中晩生	並	並		
	<b>1. べと病</b> 一次感染株の発生を抑えるため、本圃での感染防止に重要な定植後のジャストフィットフロアブルとザンプロDMフロアブルによる防除を実施する。また、罹病株の発生を認めた場合は、直ちに抜き取って圃場外へ持ち出して処分する（平成 29 年 11 月 21 日付け病害虫対策資料第 12 号参照）。					
イチゴ (本圃)	ハダニ類		やや多	やや多	214~215	 ハダニ類
	うどんこ病		少	並	204~206	
	灰色かび病		並	並	206~207	
	アブラムシ類		やや多	並	219~220	
	<b>1. ハダニ類</b> 前月に比べ発生圃場、発生株率とも増加している。発生圃場では、薬剤がかかりやすくなるよう不要な下位葉等を除去し、系統（IRAC コード）が異なる薬剤（防除のてびき P478 参照）を組み合わせ 5~7 日間隔で防除を実施する。 なお、天敵（カブリダニ類）を放飼する場合は、有効薬剤によりハダニの密度を 0 頭レベルに抑えた後に行う（防除のてびき P552~P557 参照）。 <b>2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止</b> ミツバチへの影響が少ない薬剤を選択するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す。また、ミツバチが活動する午前中の散布は控える（導入可能日数は防除のてびき P547~P551 参照）。					
キュウリ	べと病		やや少	並	184~185	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ病		やや少	並	182~183	
	褐斑病		並	やや多	187~188	
	アザミウマ類		やや多	多	196	
	コナジラミ類		やや多	多	195~196	
<b>1. ミナミキイロアザミウマ（黄化えそ病）、タバココナジラミ（退緑黄化病）</b> ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植え替え時にはこれら媒介虫（成幼虫）を確実に死滅させるため、キルパーを用いて古株を完全に枯死させつつ、2 週間程度（キルパー処理期間も含む）の蒸し込み処理を行う。						

作物名	病虫害名 <sup>注1)</sup>	1月の予想発生量 <sup>注2)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	多	やや多	231~232	 葉かび病
	灰色かび病	並	並	226~227	
	コナジラミ類	やや少	少	157~159 234~236	
	<b>1. 葉かび病、灰色かび病</b> 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRAC コード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせることで予防的な薬剤防除を実施する。 また、発生を認めていない圃場においても、こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。				
ナス	すすかび病	やや少	並	235~236	 菌核病
	灰色かび病	やや少	並	234~235	
	菌核病	並	並	237	
	アザミウマ類	やや少	並	160~165 247~248	
	コナジラミ類	やや少	やや少	157~159 248~249	
	<b>1. 菌核病</b> 一部の圃場で発生が認められる。発病部位は早めに除去し、発生初期の防除を徹底する。				
アスパラガス	<b>1. 褐斑病、斑点病、茎枯病、ハダニ類対策</b> これらの病虫害は発病茎葉、刈株等で残存するため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
キク	白さび病	やや少	並	390~391	 アザミウマ類
	アザミウマ類	並	並	394~395	
	アブラムシ類	並	並	397~398	
	ハダニ類	並	並	396	
	ハモグリバエ類	並	並	399	

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 4 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 1 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 1 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 12 月 25 日）を基に、「気温：平年よりやや低い」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 1 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	40	40 (5.4℃)	20	やや低
降水量	40	40 (56.7 mm)	20	やや少

### Ⅲ. 1月の予報

## タマネギ

巡回調査：20 圃場  
 (早生 10 圃場、中晩生 10 圃場)  
 調査日：12月20～21日



巡回調査圃場の様子

### 1. ベと病 (早生および中晩生)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

(1月に発生する可能性は低いが、苗床及び本ぽで感染する可能性がある)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1、図2 参照)

【早生】 発生株率：0% (平年0%、前年0%)  
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

【中晩生】 発生株率：0% (平年0%、前年0%)  
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

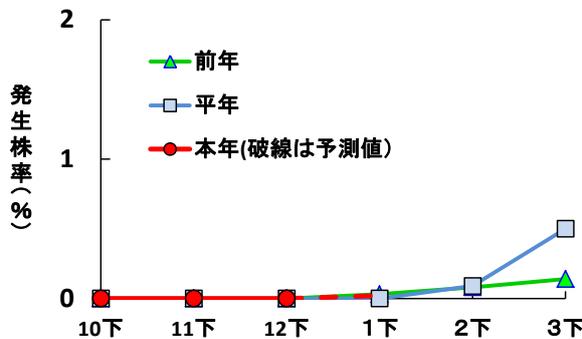


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

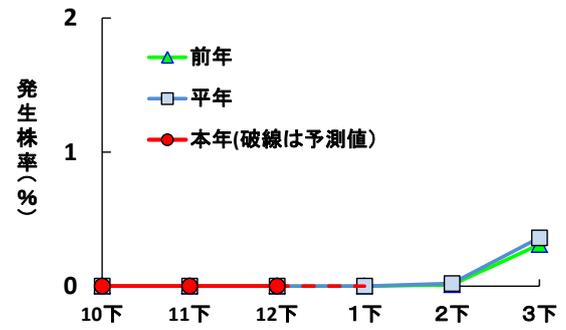


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

(2) 圃場の菌密度

近年、本病の発生が多い傾向が続いているため、圃場の菌密度は平年並～やや高いと推察される。(±～+)

(3) 1月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## イチゴ (本圃)

巡回調査：11 圃場、防除員 6 圃場  
 調査日：12月19日～21日



巡回調査圃場の様子

### 1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：10.5% (平年 6.2%、前年 6.3%)

平年比：やや多 (±～+) 前年比：やや多 (±～+)

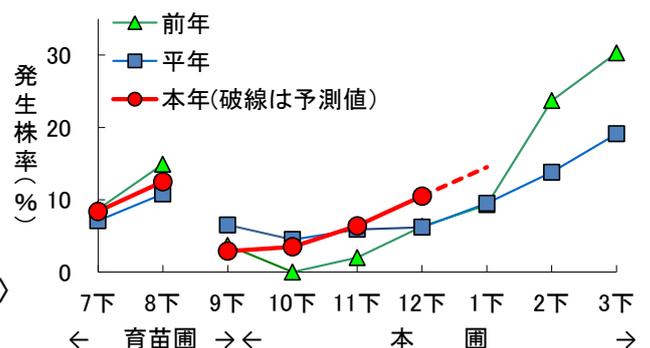


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
- (2) 同一系統 (IRAC コード) の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。
- (3) その他については特記事項を参照。

## 2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：0.9% (平年 11.6%、前年 3.0%)

平年比：少<-> 前年比：並<±>

(2) 1月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件 <-~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間~1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせさせて防除を行う。

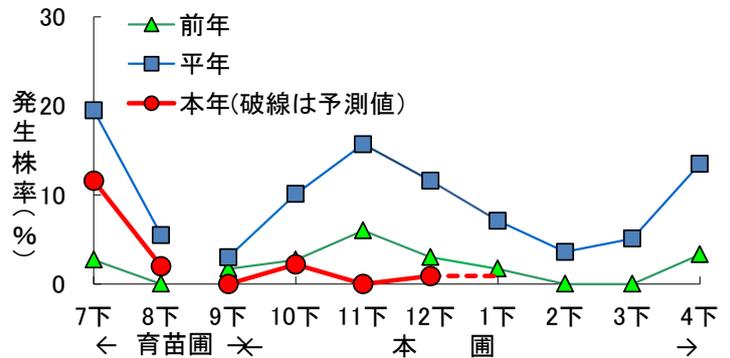


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## 3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：0.9% (平年 0.3%、前年 0.3%)

平年比：やや多<±~+>

前年比：やや多<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期からの防除を徹底する。
- (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

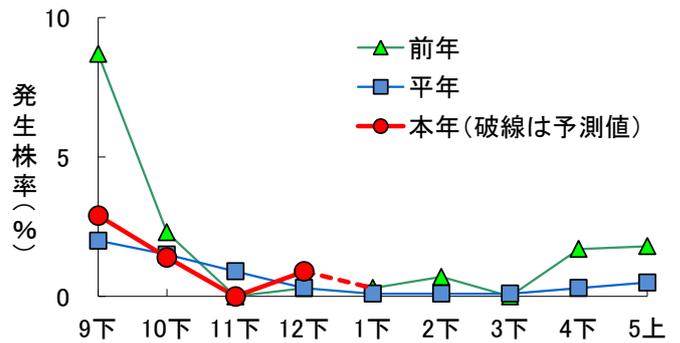


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期からの防除を徹底する。
- (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

## キュウリ

巡回調査: 8圃場うち4圃場は抑制栽培を継続中

調査日: 12月19日~21日



巡回調査圃場の様子

## 1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：7.5% (平年 4.2%、前年 3.6%)

平年比：やや多<±~+> 前年比：多<+>

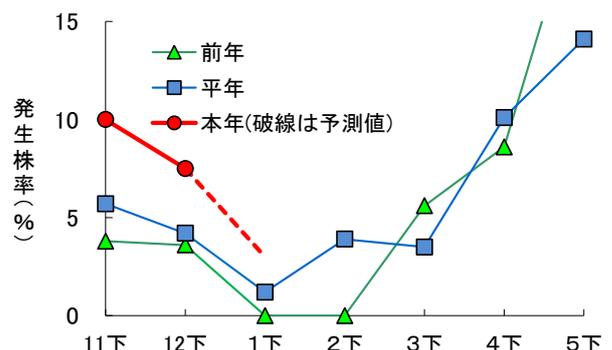


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

## 2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：6.9%（平年3.6%、前年2.1%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

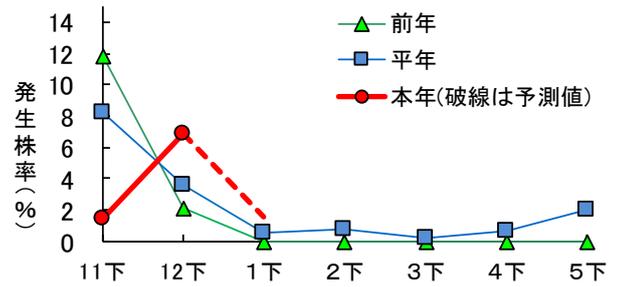


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移



巡回調査圃場の様子

# トマト

巡回調査：8圃場、防除員6圃場

調査日：12月19日～21日

## 1. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：11.8%（平年1.5%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 1月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

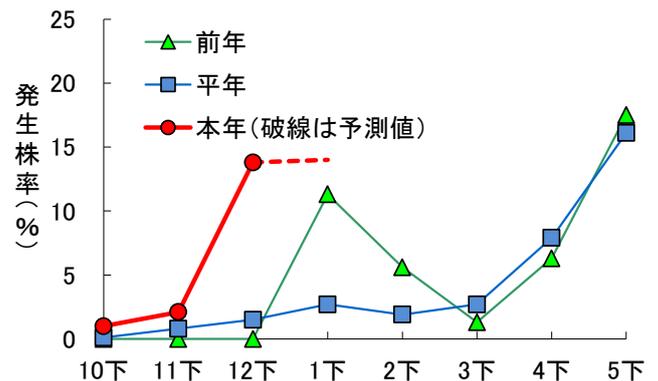


図1 葉かび病のトマトでの発生推移

## 2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.4%（平年3.8%、前年6.3%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 黄化葉巻病を媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。

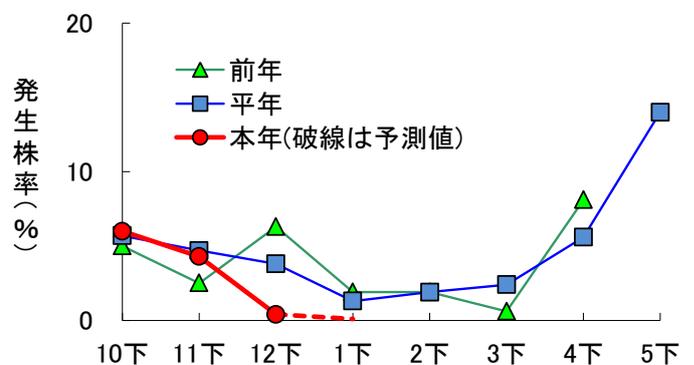


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

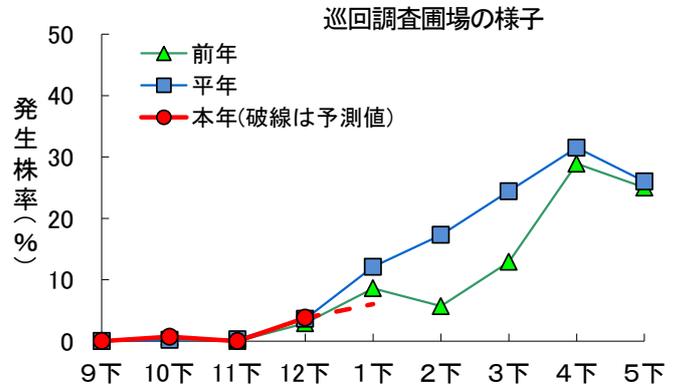
# ナス（促成）

巡回調査（7圃場）、防除員調査（6圃場）  
調査日：12月18～21日



## 1. すすかび病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率 3.8%（平年 3.6%、前年 2.9%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）
    - ②1月の気象予報  
降水量がやや少なく、やや少発生の条件（一～±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
    - (2) 初発生を確認後、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。



巡回調査圃場の様子

## 2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率 10.0%（平年 20.0%、前年 25.0%）  
平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
    - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

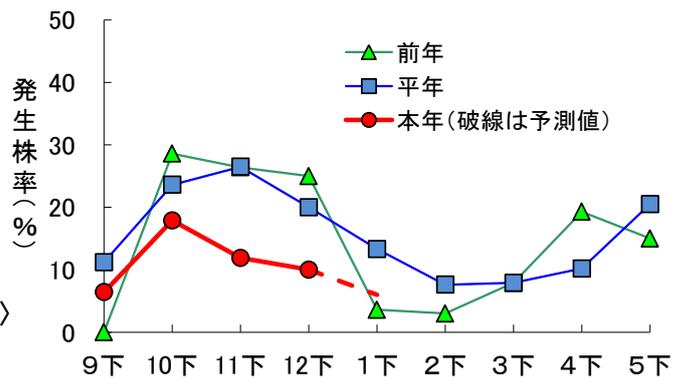


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

## 3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率 10.4%（平年 24.0%、前年 18.6%）  
平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
    - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

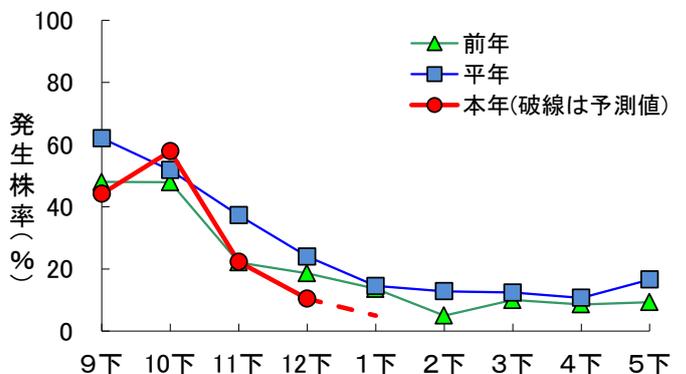


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

# キク

巡回調査 (8 圃場)  
調査日: 12月18~21日



巡回調査圃場の様子

## 1. 白さび病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 0.5% (平年 6.0%、前年 0%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

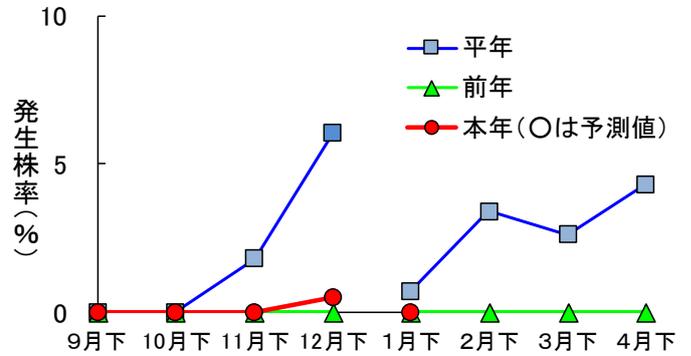
#### (2) 1月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一~±)

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。

(2) 発病後の防除は効果が劣るため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。



← 年末出荷 → ← 4~5月出荷

図1 キク白さび病の発生推移

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085  
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp